

日本福祉大学 第31号 松本オフィス通信



- No.1 学生奮戦記
- No.2 信州+ (プラス)
辰野町フィールドワーク
宮田市マーケット、美浜町産業まつり
- No.4 NIPPUKU NEWS、入試TOPICS

学生奮戦記

日本福祉大学で学んだ「ふくし」を礎に4月からは公務員として福祉・保育の現場に携わるお二人。大学での学びを自身の強みとして社会に貢献していくことを決めた二人が大学時代に培ったものとは？

100点満点中150点の大学生活

社会福祉学部 社会福祉学科 行政専修4年

小泉 寛汰さん

(長野県木曽青峰高等学校出身)



フィールドワークで知った政策形成の魅力

私は、社会福祉学部行政専修※1の学生として、また同時にスカラシップ生として4年間で多くの学びを得ることができました。今回は私の大学生活4年間を振り返り、皆さんに日本福祉大学入学後どんな体験が待っているのかご紹介します。

私が大学へ入学した2021年は新型コロナウイルス感染症の猛威は収まらず、対面での入学式や初回授業は実現したものの、すぐにオンライン授業に切り替わってしまいました。孤独を感じることも多々ありましたが、決して学びの機会がゼロになったわけではなく、私自身が学びたいと望んで行動すれば、大学が応えてくれて何かしらの知見を得られると信じ、積極的に活動に参加しました。

特に印象に残っている学びは、2年次に所属していたゼミナールでの政策形成の研究です。実際に滋賀県彦根市へ足を運び、フィールドワークを通して、地域の現状を把握しながら、地域が抱えている課題を抽出し、その課題を解決するための糸口をグループで検討していきます。実際に、ゼミ生が彦根市の職員の方々に政策を提案させて頂く貴重な機会もあり、行政の仕事に就くと自分が考えた政策がまちの一部となるという魅力を発見するきっかけにもなりました。



苦手を克服したスカラシップでの活動



オープンキャンパス内の一部のプログラムをスカラシップ生が企画から運営まで携わっています。白紙の状態からアイデアを出し合い、目標に向かって準備・行動することで、コミュニケーション能力や課題解決力を身に付けることができます。以前から私は人に頼ることが苦手で、つい自分一人で抱え込んでしまうクセがあり、活動の中で思い悩むこともありました。同年代や先輩・後輩など多くのスカラシップ生に相談に乗ってもらい、支えられながら最後まで準備を進めることができました。

思い描いていたものを形にすることができ、私たちの代の最後にして最大のオープンキャンパスでは、多くの来場者に満足していただける結果となりました。

こうした活動で得た学びや成功体験、困難克服による自信は、就職活動で活かすことができました。私は4社受験しましたが、どれも不合格になることなく最終試験まで進むことができ、その結果、第1志望先から内定を頂くことができました。これは、多くの体験と自信を自分に与えてくれた日本福祉大学のおかげだと確信しています。

卒業後は福祉職として奮闘します！

卒業間近の私が現在注力しているのは社会福祉士国家試験対策と卒業論文です。難易度の高い国家試験への挑戦になるので、参考書のみならず夏期講習や模擬試験などの手厚い試験対策プログラムに申し込み、半年前よりも模擬試験の得点率を大きく上げることができました。今後も現在の学習スタイルを信じて現役合格を目指します。また、卒業論文では、「自殺遺族への支援」をテーマに研究しています。過去の自分の体験をもとに、大切な人が自殺した場合、支援に繋がらずに困っている人々をゼロにできないか考えるのが主なターゲットです。まだ完成は遠いですが(※執筆当時)、ここで得た知見は社会に出ても必ず活けると信じて完成させます！

卒業後は滋賀県内の市役所に福祉職として入庁する予定です。今後、現場に出る毎日が当たり前になっていく中で、理論だけでは太刀打ちできない場面も多々直面すると思いますが、日福で得た自信をもって自分なりに奮闘していきます！



※1 2025年4月から改編

四年間の学びと見つけた理想の姿

教育・心理学部 子ども発達学科

保育・幼児教育専修4年

小野 瑞季さん

(長野県下諏訪向陽高等学校出身)



どんな保育者になりたい？

私が日福を選んだ理由は、4年間を通して障害の事を深く学べる点です。障害の特性等を学べることはもちろん、学内には障害のある学生も多く在籍しており、授業の支援ボランティアなど、障害学生と関わる機会があります。私も実際に他学部の先輩の支援として、実習日誌の代筆をしたことがあります。先輩が様々な思いと葛藤しながら実習に臨んでいたことを知り、自分自身、将来どんな施設でどんな支援ができる保育者になりたいのか、考えるきっかけにもなりました。

また、男子学生が多いことも日本福祉大学の特徴の一つだと思います。保育者と聞くとまだ女性の仕事というイメージが強いかと思いますが、実習先でも必ず男性保育者がいました。身体を使った遊びでは女性よりも動きの緩急をつけられることでダイナミックな動きが出来たりと男性保育者の存在は大きいと感じています。

インクルーシブ保育の学びを深めて

現在は、インクルーシブ保育を研究するゼミに所属しています。インクルーシブ保育とは、国籍や障害などの有無に関わらず参加出来る保育の事です。ゼミでは事例を扱う他にも、外国にルーツを持つ家庭が多い地域の小学校や幼稚園を見学したり、障害を持つ子どもを預かる保育園を訪問し関わったりするなどの活動を通じて、インクルー

シブ保育の学びを深めています。近年、個別の配慮が必要な子どもたちが増えていますが、自分が保育者になった時、そのような子どもたちとの関わり方に悩む場面あると思います。そんな時にきつとこの4年間の学びと経験は大いに役立つと思います。

「楽しい気持ち」を大切にできる保育者に

以前は目指す保育者像について考えが纏まらず、実習で上手くいかない事があると、この仕事には向いていないと悩む事もありました。そんな時でも子どもたちが目の前の事に一生懸命取り組み、好きな事を楽しそうに話す様子を見ると、子どものひたむきさに元気をもらい、私がへこんでいる場合ではないと思うようになりました。保育士としての目標がしっかりと定まったのは、未満児のクラスに入った時の子どもとの関わりです。その日は電車の絵本を読んでいました。しかし文字がまだ読めないで様々な電車を指差しては「ぼっぼー」と言っていました。私が電車の絵に合わせそれぞれ汽笛の音を声に出して読んであげると、「これは？こっちは？」と楽しそうに何度も聞き返してくれるようになりました。まだ発語が少なく、言葉よりも手が出やすい子どもだったため、ど



う関わるべきか悩んでいましたが、好きな物の前では目を輝かせながら一生懸命に話をしてくれる姿に驚きました。このような姿を見て、私は「子どもたち一人ひとりの“楽しい”という気持ちを大切にできる保育者になりたい」と理想を持ちました。

先生、両親への感謝を胸に

思い返すと私も保育園に通っていた頃、担任の先生に絵をほめてもらった事がすごく嬉しかったことから、今でも趣味のひとつとして絵を描き続けています。当時は学生になっても絵を描くことは想像していませんでしたが、このように幼児期の経験が大人になって生きる事があります。私も保育者として、音楽だったり運動だったり、何か一つでも夢中になって取り組める事を見つけるお手伝いが出来たらいいと思っています。

保育園での経験もそうですが、家庭でも両親には子どもの頃から様々な経験をさせてもらいました。その中には楽しかった事だけではなく、悔しかったり苦しかったりする事も沢山ありました。でもそれは決して無駄ではなく、保育者として子どもに関わる上で大切な要素になると感じています。これまでの自分を信じて理想の保育者になれるよう、これからも頑張っていきたいと思っています。



辰野町×NFUコミュニティー・ラボ

NFU・・・NIHON FUKUSHI UNIVERSITY

辰野町・辰野高等学校と2007年に交流連携協定を締結して以来、特に辰野町川島地区のみなさんと一緒に街づくりの活動や地域イベントに参加させてもらい、交流を深めてきました。2018年度からは、「地域づくり」に興味がある学生や長野県出身学生が故郷支援などそれぞれテーマを掲げ、活動を進めてきました。コロナ禍で中断していた活動が2024年度5年ぶりに再開することとなり、8月～9月にかけて「地域デザイン」を研究している社会福祉学部 宮國康弘先生のゼミに所属している3年生、4年生が辰野町内でゼミ活動を行いました。また、10月に開催された横川峡紅葉祭りには1年生3人が参加し、地域の方々と一緒にお祭りを盛り上げてくれました。

100年先の未来に何が残せるか

8月10日(土)～12日(月)の2泊3日、3年生が辰野へ入り、地域のみなさんと交流をしながら、DIY&農業体験、商店街の活用方法等を学びました。また、農村型地域運営組織(農村RMO)の形成を目指す準備委員会が企画したワークショップにも参加してもらい、それぞれの立場から川島の魅力や課題について意見を出し合いました。



少子高齢化、人手不足など課題は尽きませんが、「子どもや孫の代が暮らしていける、100年先の川島の姿を考えていきたい」と地域一体となってできることを創造し、明るい未来に

向かって前進している地域の方々の姿はとても魅力的でした。

都会と地方の地域課題や環境の違いを知り、その課題解決に取り組む地域住民の思いに触れることができた3日間は「地域デザイン」を研究している学生にとっては大変刺激的で充実した時間になったようです。



「地域デザインの本質」に触れた3日間

4年生にとって最後となるゼミ合宿が9月5日(木)～7日(土)に行われました。「地域デザイン」を研究してきた4年生の集大成です。

3日間の活動では、地元住民だけでなく、移住者の方とも交流する時間が設けられました。地元野菜を使ったおやき作りを体験したり、地域の魅力を発信している地域おこし協力隊の方の話を聞いたり、日替わり店長が立つソーシャルバーを訪問したり、閉鎖したバスの営業所にあるダンススタジオ、古着屋、ピザ屋の複合拠点を見学したりと、ここでしかできない体験がたくさんあったよう

です。人と人とのつながりが強く、地域のことを思い活動をしている方が多くいる辰野町に魅了された学生が続出した3日間となりました。



とびとびに面白いお店が集まる商店街

「アートフェスティバルの開催、アーティストや子どもたちの作品をギャラリー化するなど、アートで町を活性化できないのかな?」、「地域の子もたちや高校生をメインターゲットにした企画ができるか楽しいかも」。

辰野町を散策しながら、様々な視点から提案してくれたのは社会福祉学部1年生の3人(長野県出身者2人を含む)。

この3人は10月27日(日)に開催された横川峡紅葉まつりの運営サポートに名乗り出た学生で、「地域づくり」に興味があり学びを深めています。大学でも半田市中心市街地のまちづくり「マチプロ」(半田市の若者がまちに継続的に関わる仕組みづくりを提案するプロジェクト)にも参画しており、愛知県半田市と長野県辰野町を比較しながら、地域の特色をより深く理解して地域活性化に繋がるヒントを見つけていきたいと今回参加をしてくれました。

今回は辰野町の中心市街地でもある「トビチ商店街」を地域おこし協力隊の廣田さんに案内してもらいながら、これまでの商店街の歴史を教えてくださいました。



空き家になった建物はリノベーションされ、コーヒースタンド、雑貨や、アパレルショップ、コワーキングスペースなどのお店へ生まれ変わっています。訪問時には町中を美術館に見立てた美術展「トビチ美術館」が開催中だったため、とびとびの空き家には国内外のアーティストによる個性溢れる作品が展示されていました。

シャッター商店街と聞くと閉まっているシャッターばかりで寂しそうなイメージがありましたが、トビチ商店街はぽつぽつと明かりが灯り、暖かく、どこか懐かしい気持ちになりました。また来てみたいと思わせてくれる不思議な商店街でした。街づくりの新たな視点や可能性に触れることができた学生たちにとっては、短い時間でしたが、今後の大学での学びを刺激する時間になったようです。

四季折々の風景が魅力の横川溪谷

辰野町横川溪谷は、国の天然記念物「蛇石」のある林と川の清流がある溪谷で、夏はキャンプ、秋は紅葉の名所としても知られています。

「紅葉祭り」は日本一の大きさを誇るかやぶき屋根がある「かやぶきの館」で毎年開催されています。今年で26回目を迎え、地元川島産の農産物を販売する軽トラ市やそばの販売、キッチンカーや珈琲のふるまいなど、イベントが盛りだくさんです。2025年3月31日をもって閉校となる川島小学校の子ども達が育てた大根等も販売され、会場には朝から多くの方々が登場され賑わっていました。



地元のきのこを贅沢に使用した、きのこ汁と松茸うどん

地元のきのこや肉などの具材を調理しているのは、川島門前のお父さん方。毎年、門前地区が販売するきのこうどんや松茸うどんは大人気商品で、今年は松茸が豊作だったこともあり、大盤振る舞いの松茸うどんをお目当てに、開店前から長蛇の列ができていました。

学生は受付&会計を任命され、お客様に満足してもらえするための接客方法を自分なりに考え、行動していたようです。接客をしながら、地域の方々と会話をする中で、毎年紅葉祭りを楽しみにしている方がたくさんいること、子どもたちの元気な姿を見てパワーをもらっている方がいることなど、来店された方の思いを知ることもできたようです。



3人の活躍もあり、大きなトラブルもなく、見事に全商品売完することができましたが、学生からは若い世代の来場者が少ないこと、運営側に女性(お母さん方)の姿があまり見えない事に疑問の声があがりました。



地域理解を深めながら、自分自身の可能性を広げる

住民同士の繋がりの強さを感じながらも、初めて辰野町へ来た自分たちを快く受け入れてくれる地域の方々の温かさにつれた学生からは、「もっと辰野町のことを知りたい!」、「物事を幅広い視点で捉えられるようになりたい!」との声が上がると同時に、南信地域出身の学生からは「出身地から近いのにも関わらず、辰野町の魅力や活動、政策について驚くばかりで、身近な存在だからこそ見落としがちになってしまうことに気づきました。」と率直な感想がありました。

地域での学び(フィールドワーク)は、大学の座学では得られない新しい視点や発見、知識を得ることができます。地域住民のリアルな声に耳を傾け、自分ができることを考えながら行動することで、あたり前だと思っていたことがあたり前ではないことに気がつき、今までの概念を覆されるような体験をすることもできます。時には、自分自身の弱さとも向き合うことになりませんが、地域での学びは自分の可能性を広げ、人生観を変えるような出会いが待っています。

どこの地域にも課題はたくさんありますが、大人では思いもつかないような視点からの意見や提案をしてくれる学生の声には、新しい地域づくりのヒントが隠れているように思います。学生自身の知見を深め、多様な考えで地域の課題を解決できる力を養っていけるように、今後も継続的な活動を進めていきたいと思っています。



宮國ゼミ4年生へ
聞きました。

長野県出身学生と県外出身学生からみた辰野町とは？

今回参加した辰野町川島地区でのゼミ合宿では高校時代には知ることができなかった辰野町の魅力に気づくことができました。

私自身、辰野町内の高校に通っており、当時は「何もなく不便な町」というイメージを持っていました。今思うと、高校時代は辰野町の一部分しか見れておらず、町について知りたいという思いや地域に積極的に関わろうという思いがそれほどなかったのだと思います。

しかし、今回の合宿で実際に地域住民の方と関わり、町が行うイベント、商業施設等を直に体験したことで私が抱いていた辰野町のイメージが大きく変化しました。地域の方と話していると、皆さん辰野のことが好きで、「この町を少しでも豊かに」、「みんなが暮らしやすい地域にするためにはどうしたらいいだろうか」という想いが強く伝わってきます。何もない地域だから＝つまらないと思うのではなく、「この地域のこの場所でこんなことができれば、もっと人が集まるのではないか」と多面的、多角的に考えることができるようになり、今後は自分が情報を発信する立場になっていきたいと思うことができました。

どの地域でもそうですが、表面的に見ただけでは分からないことも多く、地域のイベントに参加したり、そこで暮らす人たちのことをより深く知ることによって地域の魅力を理解できるようになるのだと思います。これからも自分ができることを探し、自分なりに地域へ貢献していきたいです。



長野県出身 関森さん

3日間を通して感じたのは「かっこよくて夢のある地域」だということ。他県からの移住者が議会議員をやっていたり、地域おこし協力隊として活動していたり、民宿を営んでいた。長年地域で暮らしている方がやるものだという自分の中での固定観念をド派手に壊してくれました！地域の方々と交流し、実際の声を聞いていく中で、辰野ならではの賑わい・温かさを感じつつも、やはり中山間地域に起こりうる空き家問題や住民の高齢化、若者の地域活動への参加率などが存在することがわかりました。ただ他の地域と一味違うところとして、やはり移住者の多さというのがキポイントではないかと思います。もともと住んでいる地域住民と移住者との関係をどう作っていくかというのは、新しい視点だなあと楽しく学ばせていただきました！

以前にも辰野町のイベント「どろん田パレー」に参加させていただいたことがあるのですが、合宿で再会した時にそのことを覚えてくださっていて、「環境や人に関心を持って行動しているから辰野は他の地域と違う空気感があるのかなあ」と思いました。

辰野で自分のやりたいことを叶えている皆さんを見ると自分もできるかもという気持ちになるので、新しい自分を見つけない人は夢のある辰野町に行ってみてほしいと思います！



愛知県出身 吉田さん

ふるさとの良さ、歴史を再発見！宮田市 & 美浜町産業まつり

アルプスに囲まれ、田園風景が広がる自然豊かな宮田村。昨年に続き、今年も宮田村で10月20日(日)に開催された「宮田市マーケットin宮田宿」(主催:宮田村の景観を考える会)へ同村出身の学生2人が運営スタッフとして参加しました。

宮田村では、ふるさと宮田村の魅力を将来世代に引き継ぐためにも、良好な景観の保全・形成を図ることを目的に2017年4月1日、宮田村景観計画、景観条例を施行し、教育大綱では郷育(故郷に行き 故郷を愛し 故郷を創る 人財の育成)を掲げ、子ども達が地元の地域へ関心を持てるような取り組みを行っています。その一環として、伊那街道宮田宿を「みる、しる、たのしむ、わかちあう」をコンセプトに「宮田市マーケットin宮田宿」が開催されています。

今年もメイン会場では、飲食や農産物、雑貨の販売の他、ステージでは音楽とダンスが披露されるなど、地域の方々の交流の場が生まれ、各自楽しむ姿が見られました。



また、宮田村の文化や歴史までを知ることができる「宮田宿博物館での発見」では、宮田宿に関わる古文書や掛け軸、焼き物などが展示され、これまでの歴史や文化の紹介がありました。その他、国の登録有形文化財になった土蔵を巡ることもでき、会場は賑わいを見せていました。

学生2人が担当したクイズラリー「宮田宿を歩いて周って、答えを集めよう!」では、参加者が楽しみながら宮田村のことを知っていけるような仕掛けになっています。親子や友人同士で挑戦してくれる方が多く、難易度の高い問題に苦戦された方もいたようですが、クイズを通して、村の歴史にも触れることができ、新たな発見にもつながったようです。

参加した学生も進学で宮田村を離れた2人だからこそ気がつくことができた「ふるさとの魅力」があるようです。目の前にあるあたり前だと思っていた物の中に素敵な物、魅力的な物が隠れているのかもしれない。これからも地元へ貢献したいという気持ちを忘れずに、目標に向かって頑張りたいと思います。



宮田村出身の二ツ木さんと小野さんへインタビュー

Q1. 県外へ進学して改めて感じた宮田村の魅力や課題は何ですか？

宮田村の魅力は、自然豊かなところ。アルプスの山々を見ると、宮田村へ帰ってきたことを実感します。

宮田村は、「住みたい田舎ベストランキング2024」で、村の部「子育て世代部門」で4年連続全国1位を獲得していますが、まだまだ知られていないイメージがあります。イベントでは、村の皆さん同士の繋がりが深く、子ども達が伸び伸びとしている姿が印象に残っています。だからこそ、子育て支援の充実や自然の良さなどをInstagramなどのSNSや村外でのイベントでも村の魅力を伝えていくことが大切だと思います。(小野)

宮田村で暮らす人たちの持つ郷土愛の強さを改めて実感することができました。宮田市(歩行者天国)が開かれた場所の近くには、宮田村の文化財全体の約4割が存在します。幼い頃になんとなく眺めていた歴史のありそうな建物が実は国の登録有形文化財であったことを今になって知りました。このことがきっかけで、古くから存在する宮田村の歴史について関心を持つことができています。一度住み慣れた地域を離れることで、その地域の魅力を異なる視点から感じ取ることができるとと思います。(二ツ木)

左:健康科学部2年 小野さん
右:社会福祉学部4年 二ツ木さん

Q2. 今後の目標を教えてください

活気あふれる宮田村の様子を直接見ることができて良かったです。また、宮田村に古くからある文化財の歴史的価値についても気づくことができました。

一方で宮田村の様子を見て、保護者と一緒に訪れた小学生は多く見かけましたが、イベント関係者以外で地域の中学生や高校生の姿はあまり見かけませんでした。今後、中高生や子ども達がどうすれば地域のイベントに興味を持ってもらえるのかを考えていきたいです。(二ツ木)

作業療法士を目指しています。卒業後は、地元に戻りリハビリを通して、地域貢献ができるような作業療法士になりたいと思っています。そのためにも、専門職の知識を高めながら、大学近くで開催されている地域イベントへ参加をして、地域の方々や交流しながら、作業療法士としてどのように地域を支えているか、考えていきたいです。(小野)



美浜町産業まつりでは宮田村の産業をPR

11月10日(日)、美浜キャンパスがある愛知県美浜町産業まつりに数年前ぶりに宮田村ブースがお目見えしました。宮田村産のりんごやジャム、ソースなどを販売しながら、観光PRを行いました。合計450個のりんご三兄弟(シナノゴールド・シナノスイート・秋映)は午前中のうちに完売してしまい、信州産りんごの持つブランド力の高さを目の当たりにしました。

「宮田村では歴史や文化、美浜町では産業を知ってもらうためのイベントで、双方お祭りのコンセプトは違いましたが地域を知ってもらうという部分は共通していると思います。今回両方のイベントに参加できたことで地域の魅力や底力を何度も実感しました。地域の活性化やより良い暮らしを目指して奔走する地域の方々や関わり影響を受けて、これからの地域活性化に必要な若い世代をどうすれば取り込めるのか、自分なりに考えていきたいです。」とイベントに協力してくれた二ツ木さんからの感想が印象的でした。



NIPPUKU NEWS

長野県に関わる日本福祉大学の情報をご紹介します

長野県出身学生がキャンパスをご案内！ オープンキャンパスバスツアー



毎年、多くの皆さまにご参加いただいているオープンキャンパスバスツアー。今年度も7月27日(土)の美浜オープンキャンパスに合わせて、長野県発のバスを運行し、総勢41名の高校生、保護者の方にご参加いただきました。

このバスツアー最大の特徴は長野県出身の在学生が案内してくれるというところ。キャンパスに着くと、担当の学生スタッフが皆さんをお出迎えし、参加したい企画、行きたいところへと案内してくれます。また、一緒に会場を回る間にも学部での学び、サークル、アルバイトの話はもちろん、ひとり暮らしで困ったことや長野県と愛知県の違いなど同郷の先輩だからこそ聞ける話題が盛りだくさん。キャンパスガイドやWEBサイトには載っていない先輩のリアルな話を聞けるのが最大の魅力となっています。

今回も参加者の皆さまより感想をいただきましたので、その一部をご紹介します！

参加者の声



色んな学生さんが話しかけてくれて聞きたいことをたくさん聞くことができた。他の大学とは違いとても魅力を感じた。不安だったことがなくなった。



学生スタッフさんの案内や説明がとても丁寧でわかりやすかったです。自分の将来の話をした時、励ましの言葉をくださってとても勇気付けられました。



学生の方がとても優しく話していてすごく楽しかったし、推薦のコツなど分かりやすく説明してくれたので分かりやすかったです！



最初は緊張していたけど、学生さんから好きなこととか学校のことを聞いてくれたおかげで緊張が解けて聞きやすかったです。

ご参加いただきました皆さま、ありがとうございました。
今回のバスツアーが皆さんの進路選択の一助となれましたら幸いです。

「寿齢讃歌-人生のマエストロ-写真展19」 が開催されました

公募写真展「寿齢讃歌」が今年も茅野市美術館で開催されました。
【開催期間：2024年9月13日(金)~9月25日(水)】

この写真展は諏訪市出身の写真家、故・木之下晃先生(本学卒業生・客員教授)のプロデュースにより始まった写真展です。おおむね75歳以上の方々を被写体とした写真を通して、お年寄りを称え、そこに写り込む地域文化と共に次世代に伝えていくことを掲げています。生前、「市井で星霜を積み上げてきた人たちは皆『人生のマエストロ』。そこに刻み込まれた風貌を残すことは、後世への文化遺産になる。そして福祉を学んだ自分の福祉活動でもある。」とおっしゃっていた木之下先生。本学もそのコンセプトに感銘を受け、また、本学に所縁の深い長野県での取り組みであることから、長年にわたって協賛をしています。

19回目となる今回も全国各地から85作品の応募があり、会場を訪れた人々の目を惹きました。9月13日(金)に行われたオープニングセレモニーでは、今回から講師としてお迎えした写真家・石川直樹さんも会場に駆け付け、「それぞれの写真から読み取れる情報が豊富で、見ていて飽きることがありません」と挨拶をされました。



本写真展の出展作品はこちらの
WEBサイトからもご覧いただけます⇒



受験生サイトはこちら！！



入試TOPICS

今年度入試もまだ間に合います！ 一般入試がさらにパワーアップ！

1 日本福祉大学 特別奨学生制度 NEW

最大4年間の授業料と入学金が半額になる新制度が誕生！一般入学試験【前期日程】A方式(3教科型)合格者の内、成績上位者25%が減免対象に。2年次以降も各学部での学業成績が上位25%以内であれば、継続して半額減免されます【全学部対象】。



2 社会福祉学部 スカラシップ 一般入学試験

一般入試で社会福祉学部の受験をお考えの皆さん、スカラシップ入試に挑戦してみませんか？スカラシップで合格すると、特別育成プログラムへの参加や4年間の授業料と入学金が半額に！スカラシップを逃しても一定以上の成績で一般入試の合格の権利が得られます。

3 一般入試対策WEB講座 動画配信中！

「一般入試」に向けて、予備校講師による対策講座の動画を配信します。教科別に予備校講師が過去の一般入試問題を分析し、出題傾向や受験対策について解説いたします。お申し込みはコチラ⇒



4 一般入試【前期日程】は 長野県内3会場で受験できます！

一般入試【前期日程】(2月3日~5日)では、長野市、松本市、飯田市の県内3会場で受験可能！利用しやすい会場をお選びください。また、日本福祉大学は2出願目からの検定料が5,000円とお得。方式や日程等を変えて複数出願しても負担少なく合格のチャンスが広がります！

5 一般選抜<共通テスト利用入試(前期)>で全学部出願型を開始！

共通テストを受験した方であれば試験会場に足を運ぶことなく、受験可能な<共通テスト利用入試>。今年度から新たに全学部出願型(前期日程:3教科型)を導入しました。1出願(検定料25,000円)で全学部・学科・専攻・専修に出願でき、学部の選択は合格発表後でOKです。

6 総合型選抜がリニューアル！ (AO入試、活動評価型入試)

AO入試、活動評価型入試の募集学部新たに「健康科学部リハビリテーション学科理学療法専攻」が追加！また、従来点数化していなかった「調査書」や「検定・資格」を点数化して今までの頑張りもしっかり評価します！

7 2025年4月~ 各学部・学科がリニューアル！より専門的な新しい学びがスタートします！

工学部が誕生

人間らしい暮らしを支える技術や空間。その研究教育をさらに極めるために「工学部」を開設します。情報工学と建築学を両論として、時代の変化を先取りする「エンジニアやアーキテクト」育てます。人を真ん中に考える工学として日本福祉大学の工学部が起動！

社会福祉学部が進化！

学びの仕組みを一新して科目選択や進路選択の自由度を高めるため、「総合政策専修」と「現代社会専修」の2専修制となります。将来の目標が明確な人も、入学後に進路を考えたい人にも幅広く柔軟な学びが用意されています。

経済学部が2専修制へ

2専修制を導入し、経済学・経営学の両面に強い企業人や公務員を育成します。経済・経営のいずれかに軸足を置きつつ、両分野を幅広く学べるカリキュラムに刷新。企業や自治体、医療福祉など多彩な分野で活躍できる人材を養成します。

こども学科へリニューアル

これからの社会で求められる障害児保育・多文化保育・自然保育の3つのキーワードを複合的に考え、全てのこどもや家族の「声」を大切に保育者を養成します。こどもや保護者と触れ合う機会も豊富にあるため、多様な保育ニーズに応えられる力が身に着きます。

日本福祉大学 松本オフィス

〒390-0815 長野県松本市深志1-1-24・3F
TEL: 0263-31-9011 FAX: 0263-32-8018
MAIL: e-matsumoto@ml.n-fukushi.ac.jp
OPEN: 火曜日~土曜日 9:30~17:30
CLOSE: 日曜日・月曜日・祝日



入試のご相談・面談をはじめ、ささいな事でも、お気軽にご相談ください！
なお、留守にしている場合がありますので、来室される場合は事前にご連絡いただけると幸いです。

松本オフィス通信のバックナンバーは下記QRコードからご覧いただけます↓



松本オフィスへのご質問・ご相談・来室の予約はこちらのフォームから⇒

